



統計雑感

茨城県議会議員長

下条正雄

統計といえば誰でもまず数字を連想します。統計学は数字を取り扱う学問であるということが常識となつているのみならず統計学を理解するには進んだ数学の知識が必要であると考えられており、また統計学は応用数字の一部門であるという見方をする学者もあるようです。

しかし反面、数学の取り扱う数字と統計学が取り扱う数字、すなわち統計とは根本的にその性質を異にするものであります。数学で扱う数字は単純な一般的なものであるのに反し、統計は具体的、個別的な実体をとまなう特殊なものであり、実際の事物あるいは出来事に対して個々の経験的、社会的観察によつて得られるものであります。従来、わが国は欧米諸国に比較して統計が貧困であつたということがいわれております。これは、日本人は非合理的で勘で物事を処理することが多く、それに対して欧米人は合理的で科学的資料を重要視するというところに起因していると考えられます。

今日、統計は、人間の生存に食糧が必要であるように文明社会においては不可欠のものであります。ことに現代のように社会が複雑化してまいりますとなおさら正確な統計というものが重要になつております。

今日、本県は鹿島地域の開発、研究学園都市の建設、水戸、日立広域都市づくり等を中核に着々発展の道を歩んでおります。今後、県政の飛躍的進展にともない県行政はますます複雑多岐になり、正確な統計にもとづいた適確な判断と運営が必要となつてまいります。このためには、より科学的、客観的な統計がますます重要となり、いよいよその真価が発揮されるのであります。また、市町村行政、民間企業等におけるあらゆる事業につきましても、より健全な進展のために統計のはたす役割りがきわめて大きいことは申すまでもありません。

すべて独立した国家には、国家としての指標があるように、各地方自治体には各々その自治体住民が求める指標がなければなりません。そして、その指標が広く住民の共感を得るとき、その地域の発展をもたらすことは古今東西の史実が明らかにしているところであります。政治にたずさわる者の任務はまさに正確な資料をもとにした正しい指標を定め、住民に進むべき道を示し、これを果敢に実行することにあると存じます。

これからの政治は科学的に正確な統計の活用なくして考えられません。

政治にたずさわるわれわれはもちろんのこと県民のみなさんも統計の重要性を再認識していただき新しい時代に対応した行政が行なわれるようご協力を願つてやみません。